



平成26年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成25年12月5日

上場会社名 株式会社きんえい 上場取引所 東
 コード番号 9636 URL http://www.kin-ei.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 丸山 隆司
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経理部長 (氏名) 好井 裕一 (TEL) (06)6632-4553
 四半期報告書提出予定日 平成25年12月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年1月期第3四半期の業績(平成25年2月1日～平成25年10月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年1月期第3四半期	2,416	4.5	89	—	79	—	44	—
25年1月期第3四半期	2,313	△10.5	△5	—	△13	—	△32	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
26年1月期第3四半期	円 銭 15 93	円 銭 —
25年1月期第3四半期	△11 50	—

※平成25年6月1日付で株式10株を1株の割合で併合しており、1株当たり四半期純利益は当該株式併合が前事業年度の期首に行われたと仮定して算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
26年1月期第3四半期	百万円 5,139	百万円 1,639	% 31.9
25年1月期	5,227	1,623	31.1

(参考) 自己資本 26年1月期第3四半期 1,639百万円 25年1月期 1,623百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
25年1月期	円 銭 —	円 銭 0 00	円 銭 —	円 銭 1 00	円 銭 1 00
26年1月期	—	0 00	—		
26年1月期(予想)				10 00	10 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

※平成25年6月1日付で株式10株を1株の割合で併合しているため、平成26年1月期の配当予想につきましては、当該株式併合の影響を考慮しております。

3. 平成26年1月期の業績予想(平成25年2月1日～平成26年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
通期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
	3,100	△0.4	110	—	90	—	50	—	17 92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

26年1月期3Q	2,821,000 株	25年1月期	2,821,000 株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

26年1月期3Q	30,828 株	25年1月期	30,165 株
----------	----------	--------	----------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

26年1月期3Q	2,790,454 株	25年1月期3Q	2,791,417 株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に掲載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあつての注意事項等については、添付資料P2「(3)業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(6) 重要な後発事象	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、政府・日銀による積極的な財政政策や金融緩和の実施を背景に円安・株高が進行し一部の輸出関連企業等で業績が回復基調となったものの、円安による原材料価格の高騰や来春の消費税増税を控え予断を許さない状況となっております。

この間当社におきましては、事業全般に亘って顧客満足度のより高いサービスの提供に努めるとともに、部門別業績管理のさらなる徹底を図り、集客と収入の確保に努めました。

各セグメントの状況は次のとおりであります。

シネマ・アミューズメント事業部門におきましては、劇場事業では“風立ちぬ”“モンスターズ・ユニバーシティ”“名探偵コナン”“テッド”“そして父になる”“ドラえもん”“謎解きはディナーのあとで”“真夏の方程式”“ポケットモンスター”“シュガー・ラッシュ”などの話題作品を上映して観客誘致に努めました。また、阿倍野地区で唯一の映画館であることを広く訴求するため、平成25年7月1日より劇場名を「アポロシネマ8」から「あべのアポロシネマ」に変更したほか、デジタルサイネージ、メールマガジン、ブログ、ツイッターなど各種メディアを利用した情報発信を活発に行うとともに、「あべのハルカス」や「あべのキューズモール」との共同販売促進活動を展開し、増加する阿倍野地区来街者への積極的な働きかけを行いました。さらには、昨年より設置を始めた自動券売機をチケットカウンター横に移動のうえ計4台に増設するなど、顧客利便の向上と省人化による経費節減にも意を用いましたので、劇場事業では前年同期を上回る成績となりました。一方、遊戯場事業におきましては劇場事業との連携による集客を重点的に推進しました結果、この部門全体の収入合計は、前年同期に比較して4.7%増の1,046,365千円となり、営業原価控除後では23,173千円のセグメント損失(前年同期は38,516千円のセグメント損失)となりました。

不動産事業部門におきましては、安全で快適なビル環境の整備を継続的に推進するとともに、「アポロシネマメンバーズ」の会員が当面の目標であった10万人を突破したことを記念して、アポロビル、ルシアスビルにおける販売促進活動を行うなど、劇場事業との連動を重視した誘客に努めたほか、ルシアスビル1階のルシアスステージを開放し、地域連携によるパフォーマンス公演「あべのAステージ」を定期的開催するなど賑わいの創出にも注力いたしました。またビル空室率の低減を図るべく、テナント誘致活動を精力的に推進する中で、とりわけルシアスビル事務所フロアの空室率が大幅に改善したことなどから、駐車場収入等ビル付帯事業並びにその他の事業を含めたこの部門全体の収入合計は、前年同期に比較して4.2%増の1,369,899千円となり、営業原価控除後では前年同期と比較して22.8%増の334,309千円のセグメント利益となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間の売上高合計は前年同期に比較して4.5%増の2,416,265千円となり、費用の面におきましても、全社において業績管理を徹底し、諸経費全般に亘って鋭意削減に努めた結果、営業利益は89,934千円(前年同期は5,009千円の営業損失)となり、経常利益は79,128千円(前年同期は13,928千円の経常損失)、四半期純利益は44,452千円(前年同期は32,090千円の四半期純損失)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第3四半期会計期間末における総資産は、固定資産の減価償却等により前期末に比較して88,023千円減少し、5,139,181千円となりました。負債は借入金金の返済等により、前期末に比較して103,976千円減少し、3,499,749千円となりました。また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したため、前期末に比較して15,953千円増加し1,639,431千円となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成26年1月期の通期業績予想につきましては、平成25年9月5日に「平成26年1月期第2四半期決算短信(非連結)」にて公表した業績予想に変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	68,063	64,354
売掛金	94,935	91,573
商品	3,304	3,602
その他	258,585	419,576
貸倒引当金	△380	△320
流動資産合計	424,508	578,787
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,542,384	2,338,119
機械及び装置(純額)	78,132	69,734
工具、器具及び備品(純額)	69,241	73,853
土地	1,123,748	1,123,748
建設仮勘定	—	2,631
有形固定資産合計	3,813,506	3,608,087
無形固定資産		
投資その他の資産	68,537	57,567
差入保証金	884,340	859,555
その他	36,311	35,183
投資その他の資産合計	920,651	894,738
固定資産合計	4,802,695	4,560,393
資産合計	5,227,204	5,139,181
負債の部		
流動負債		
買掛金	83,654	75,886
1年内返済予定の長期借入金	350,920	428,920
未払法人税等	6,773	54,461
賞与引当金	9,500	22,000
その他	365,080	450,492
流動負債合計	815,927	1,031,760
固定負債		
長期借入金	692,420	388,500
退職給付引当金	65,130	69,489
受入保証金	1,619,239	1,618,281
資産除去債務	272,211	275,299
その他	138,798	116,418
固定負債合計	2,787,799	2,467,989
負債合計	3,603,726	3,499,749

(単位:千円)

	前事業年度 (平成25年1月31日)	当第3四半期会計期間 (平成25年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	564,200	564,200
資本剰余金	24,155	24,155
利益剰余金	1,138,027	1,154,571
自己株式	△104,212	△105,853
株主資本合計	1,622,170	1,637,073
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,307	2,357
評価・換算差額等合計	1,307	2,357
純資産合計	1,623,477	1,639,431
負債純資産合計	5,227,204	5,139,181

(2) 四半期損益計算書
第3四半期累計期間

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成24年2月1日 至平成24年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成25年2月1日 至平成25年10月31日)
売上高	2,313,111	2,416,265
営業原価	2,079,336	2,105,129
営業総利益	233,775	311,135
一般管理費	238,785	221,201
営業利益又は営業損失(△)	△5,009	89,934
営業外収益		
受取利息	1,323	1,458
受取配当金	69	91
違約金収入	2,666	900
雑収入	3,031	1,048
営業外収益合計	7,089	3,498
営業外費用		
支払利息	15,994	12,344
雑支出	13	1,960
営業外費用合計	16,008	14,304
経常利益又は経常損失(△)	△13,928	79,128
特別損失		
固定資産除却損	35,225	3,047
特別損失合計	35,225	3,047
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失(△)	△49,153	76,080
法人税、住民税及び事業税	12,000	64,000
法人税等調整額	△29,063	△32,371
法人税等合計	△17,063	31,628
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△32,090	44,452

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自平成24年2月1日至平成24年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	999,010	1,314,101	2,313,111	—	2,313,111
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	999,010	1,314,101	2,313,111	—	2,313,111
セグメント利益又は損失(△)	△38,516	272,291	233,775	△238,785	△5,009

(注)1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間(自平成25年2月1日至平成25年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期 損益計算書 計上額 (注)2
	シネマ・アミューズメント事業	不動産事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,046,365	1,369,899	2,416,265	—	2,416,265
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,046,365	1,369,899	2,416,265	—	2,416,265
セグメント利益又は損失(△)	△23,173	334,309	311,135	△221,201	89,934

(注)1 セグメント利益の調整額は、主に各報告セグメントに配分していない一般管理費(全社費用)であります。

2 セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。